

## 会 議 録

会 議 名 称	第2回 自立支援センター設置に関する検討委員会
日 時	平成16年6月24日(木) 午前10時~12時
会 場	区役所中棟4階 第一委員会室
出 席 者	<p>委員  山田知子委員、柴田純一委員、高橋新一郎委員、武田富乃委員、  夏目政之委員、鈴木定雄委員、内田寿子委員、都築准子委員、  小林幸男委員、小林英雄委員、菊池律委員</p> <p>事務局  保健福祉部管理課長、計画推進担当副参事、西福祉事務所長、  企画課企画調整担当係長、管理課路上生活者対策担当係長、  東福祉事務所保護第一係長</p> <p>関係職員  東福祉事務所長、南福祉事務所長、福祉局保護課自立支援担当係長</p>
配 布 資 料	<p>資料2-1 自立支援センター利用実績  資料2-2 今後の区民への情報提供について(案)  資料2-3 自立支援センター等の設置状況と設備について  資料2-4 自立支援センター等運営法人の概要  資料2-5 自立支援センター連絡協議会の概要</p> <p>参考資料  1 検討委員会設置に関する新聞掲載記事  2 既存の自立支援センター設置場所</p>
議 事 等(要 旨)	
1. 自立支援センターの現状について	
事務局	資料2-1 について説明
委員	自立支援センター退所者が、入居するアパートの家賃はどの程度か。
事務局	調査データはないが、4~5万円程度のアパートが多い。
委員	退所後、雇用主が今までのホームレスという経験をどう評価しているかなど、事後フォローに関する情報はなにか。

事務局	調査データはないが、前回資料で示したように、退所後訪問や郵便での住居状況確認等、自立支援センターによるアフターケアが始まったところであり、今後状況が見えてくると思う。
委員	アフターケアは、確かに重要な視点である。せっかくセンターを利用して自立したんだから、路上に戻らないためのフォローが大切。また、区としてどういう責務があるかということも考えてみる必要があるのではないか。
委員	路上生活者問題は、都市問題の中でも最も難しい課題の一つと認識して、都と23区は共同で取り組んでいる。都心部に集中しているが、そこだけで取り組めばいいという問題ではない。国にも要望を出し、現場では、公園で路上生活者に声をかける等のアウトリーチもし、施設を活用して路上生活者支援に取り組んでいる。 18年2月から5年間、豊島寮に代わって杉並区に自立支援センターを設置するという事は、区の大きな責務であると考えている。区民にとって身近な問題とはいえませんが、区民の理解を広め、それを土台にして進めていくことが大切だと思う。 自治基本条例でも、区民と情報を共有して一緒に考えていくことが大切であるとしており、情報をオープンにして説明責任を果たし、事業を進めていきたいと考えている。
委員	区だけでなく、区民の力量も問われているように思う。自立支援センターの意義や設置の必要性について、一定の理解をしつつ、具体的にどのように設置していくかという点について考えていきたい。
2. 今後の区民への情報提供について	
事務局	資料2-2について説明
委員	地域では、地域区民センターから路上生活者の悪いイメージがあがってきている。居座って、周囲の迷惑になっているとの情報がある。逆に区からの情報は今までに少ない。全体的な情報をフィードバックしてほしい。
委員	住宅と仕事がポイントだと思うが、住宅を借りるには仕事がないと難しい。そういう点で区のサポートがあるといいのでは。また、仕事に関しては、建設事業とか公園清掃など区の仕事をしているところに就職を斡旋するとか、行政としての支援も必要ではないか。
委員	区民にとってどれだけ興味もてるテーマだろうか。子どもにしてもホームレスのことをよく知らない状態で施設といっても興味もてないのでは。大事なことだと思うが、具体的な話にならないと実感は薄い。
委員	一般の反応としては、確かにそうだと思う。ただ、大都市が直面する問題として、こういった問題にどう取り組むかを考えるきっかけになればと思う。

委員	広く情報公開が必要な事項であることを確認し、「今後の区民への情報提供」について了承する。
3. 用地選定、施設建設の留意点について	
事務局	資料2-3及び参考資料2について説明
委員	<p>どんな自立支援センターがいいのか、利用者・運営者・近隣区民、それぞれの立場で違うと思う。</p> <p>利用者の立場から言えば、センターは一定期間とはいえ生活の場であり、生活のしやすさという点で施設によって差があるようだ。例えば、交通の便が悪くても、案外苦にならなかつたり、当たり前ではあるが、広いほうがいいなど。</p> <p>自立のしやすさという点で言えば、就職活動で住民票に「寮」となっていると、路上生活者だったことが知られてしまうが、ある寮では住民票が「ハイツ」となっていて、その点はスムーズにいくと聞く。</p>
委員	<p>電話に出る際も、社員寮のように対応し、本人に取り次ぐなど、各施設で配慮している。そのような施設であることを隠すのか、オープンにするのか、ひとつ議論になるところだと思う。</p> <p>住居の保証人の話が出たが、現在、民間団体の保証人制度があり、都としてもそのような団体への補助を検討中である。</p> <p>先行する自治体の状況だが、建設が遅れている理由の共通点として、区境に予定していることがある。説明会等も倍の時間がかかるし、隣の区からはどうしても反対が強い。これまでの経験から、区境は難しいと感じるし、また、周囲にあまり建物がない方がいいと思う。</p>
委員	<p>緊急一時保護センターの大田寮は、100畳近い部屋に2段ベッドで、間隔もあり、プライバシーがある程度保たれているが、狭い施設では、プライバシーが十分確保されていない所もある。プライバシーなんて贅沢、と思うかもしれないが、これまでの経験から言うと、いじめ発生などの問題があり、ある程度のびのびできる環境というのは必要だと思う。</p>
事務局	<p>大部屋、大人数はあまり好まれないようで、それを理由に施設利用を拒む傾向もあるように聞いている。このため、居住環境についてもある程度配慮が必要かと思う。</p>
委員	居室の最低基準3.3㎡とはどの部分を指しているのか。
委員	居室部分の2段ベッドと共有通路部分を含んだ面積を人数割した面積の基準で、畳2枚分程度である。
委員	路上生活からの自立という視点からどう考えるのか。押し込めるのではなく、自立を促すとすれば、狭さからくるトラブルは避けられた方が良くと思う。施設を視察してから考えたい。

4. 施設の運営主体について	
事務局	資料2-4 について説明
委員	区内に社会福祉法人はあるのか。
事務局	特別養護老人ホーム等を運営している法人はあるが、路上関係の経験がある法人はない。
委員	区民に説明する際、「(路上生活者を)隔離する施設」というイメージを取り払わないといけない。 特に安全問題がクローズアップされている今、隔離するための施設ではないことを区民にPRするためにも、区で把握している法人に関する情報(どのような経験のある法人か)は大事である。
委員	路上生活者関係施設の事業者自体が少なく、ノウハウの蓄積も少ないのが実態である。既存施設を運営している事業者は、いずれも周囲との関係に配慮をしている。
委員	就職するための施設だから、仕事探しという点で積極的でノウハウのある団体があるといい。
委員	自立支援センターに対し、従来の救貧の感覚ではなく、また、隔離施設ではないということをどのようにアピールできるかが重要である。
委員	テレビなどを通じて、路上生活者の荒れたイメージが深く入っている。狭すぎると、外に出て酒を飲むとかいうイメージもある。実際に作る施設は3～4人部屋程度が理想ではないか。
委員	ハードがソフトを規定するという面がある。あまり気を使わずに暮らせる環境をどうつくるか。また、力量のある法人をどう選ぶかも大切である。
委員	法人選定は、運営協議会で決定するが、今までも設置区の意向を反映している。今後、運営主体の姿勢、意欲も大事にして、区の意向を固めていく必要がある。 また、「隔離施設にしない」というのは新しいテーマだ。一方では路上生活者の施設であることを積極的にアピールできない事情もあるだろうし、どう調整していくか知恵の出どころ。住民に対して、なにが行われている施設であるかはオープンにして、例えば住民との交流などという話があればそういったことにも道を開いていくような施設のあり方がこの検討会から出てきてもいいのではないか思う。
5. 設置後の施設と地域との関係、区の役割について	
事務局	資料2-5 について説明

委員	連絡協議会の委員は、設置地域を中心にした方がスムーズに行くと思う。
事務局	既存施設の連絡協議会は、公募形式ではない。構成は、民生委員、PTA、保護司、学校長など様々で、設置地域の方が委員になっている。
委員	連絡協議会が、住民説明段階と施設設置後の二段階になっている区があるが、この方がスムーズで理想的ではないか。
委員	合意前に連絡協議会を立ち上げることで、うまく運んだのだろうか。
委員	住民説明会をいくらやっても議論が平行線だったり、何十人も集まって言い合っているより、双方の立場から代表に参加してもらい議論するほうが前に進む。 連絡協議会での開設後の話題は、利用者が散歩中に住民に声をかけて困るとか、タバコのポイ捨てなど細かい点が多く、運営主体から利用者に注意している。
委員	住民への説明のタイミングを焦ってはいけなと思う。開設という結論が決まっている中で、どのように住民と合意形成していくかを考えることが大切である。
委員	「隔離施設にしない」というキャッチフレーズは大変建設的。しかし、地域区民センターでのマイナスイメージのようなものも知らせないと、何をどうしたらいいのか、具体的に話を進められない。 地域区民センターの話で言えば、福祉事務所の役割が大切である。杉並区の事務所は力があり、チラシをまいて路上生活者が来やすい雰囲気を作るなどの努力をしている。 地域で迷惑な人が増えてしまったとき、福祉事務所のことや自立支援センターの事を知っていれば、周囲の人が積極的に関わって解決しようと動くのではないか。そういう意味でも自立支援センターと平行して福祉事務所にも焦点を当てていく必要がある。
6. その他	
事務局	次回、検討委員会の日程等確認
	閉会